

SDGsで日本を変える 世界を変える



2015年9月に国連サミットで採択された「SDGs」は、持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットを示し、2030年を目標に見据えた全世界の共通指標となりました。統括インタビューでは、国際関係論、地球システム・ガバナンスを研究されている慶應義塾大学の蟹江憲史教授に、SDGsを市民社会に反映させるためにNGO・NPOはどんな取り組みが必要なのかを伺いました。

統括インタビュー

これまでにはなかった理想ベースの目標設定

SDGsが発効されたことの意義は大きく3つあります。まずは17の目標、169のターゲットと間口を広く設けたことで、より多くの人が共有できる到達点を設定できたことが挙げられます。これだけ包括的なテーマを掲げ、かつ国連に加盟するすべての国々が合意したこと、SDGsは歴史的にも画期的な国際目標としての位置づけになりました。2つ目は、SDGsが「目標ベースのガバナンス」と呼ばれるほど、野心的な理想の未来像を目指しているという点です。目指すべき未来の状態を想定し、それを基準に現在を振り返って今何をすべきかを考え動いていく。この発想を世界レベルで掲げたことは、時代の流れの転換点になると思います。そして3つ目はSDGsには進捗状況を知るための指標があることです。恒常的に到達点を確認できる機能が備わっているため、これまでよりも数値目標を掲げやすく、積極的に取り組んでいくことができます。



あらゆる分野をまたいだ目標を国連が掲げ、全加盟国が賛同していることの意義は大きい。日本国内でも意識の改変と早急な取り組みの促進が急がれている

国内でも活発化の兆しが出始めている
ではSDGsの取組状況や意識の普及

及はどうか。すでに欧州では民間企業が事業目標としてSDGsの目標を直接掲げているほど、高い意識水準に到達しています。また「世界経済フォーラム会議(通称ダボス会議)」のような国際会議の場面では、社会の動きがIoTで加速しながらも、進んで行く方向が見えにくいことが課題になっています。そこでSDGsが普遍的な目標として、世界的な動きの方向付けとして認識されるようになっていきます。対して日本は、政府政策の中でSDGsのテーマに対して担当する省庁を羅列して当てはめているだけの段階です。それでも、ニュースにSDGsの話題が上るなど、国内での認知度は少しずつ上がってきている印象です。また、企業と自治体のSDGsに向けた動きは活発になり始めています。これまでSDGsの勉強会や講演に出席していたのは企業のCSR担当部署が

培った知識や経験値で自治体・企業と連携を

に動いている自治体は、結果的に首長や幹部も巻き込んだ活動を展開できています。

企業・自治体はNGO・NPOを待っている!

NGO・NPOには、ぜひ政府や自治体、企業のSDGsに対する取り組みを数値として評価することで「見張り」の機能を持つてほしいと考えています。先述の通りSDGsには進捗状況を常に評価・確認する指標があるので、これを活用して取り組みが単発のキャンペーンで終わらないよう、働きかけ続けてください。もう一つは、企業や自治体と積極的に連携をとっていただきたいです。団体がこれまで蓄積してきた知識や経験値は豊富なので、企業や自治体とコラボレーションすることで、双方にとって新しいアイデアが出てきて面白い活動を展開しているはず

例えば「エシカル消費」の観点で、企業が環境や人権、ジェンダーに配慮された方法で製品を生産しているかど

うかのチェックをしてほしいと思います。もしも生産の背景に、SDGsの目標に反する要素があれば、それは企業にとって大きなリスクとなる時代です。例えば、NGO・NPOが化粧品会社と連携して、石鹸の生産がエシカルに行われているか監視し、それを双方でアピールしていかげでしょうか。団体側は活動目的に沿った取り組みが現実的に行えますし、企業側は製品の安全性・倫理性を強調することができます。

また、自治体との連携例としては、限界集落と呼ばれるような地域で、NGO・NPOが会員を巻き込みながら自治体と一緒に森の観光ガイドを行っていかげでしょうか。森林や生物多様性の保全活動と、「持続可能な自治体の運営」にも一役買うことができます。企業に比べて自治体は特に、地域のノウハウが詰まったNGO・NPOを必要としていることが多いので、積極的なコラボレーション展開に期待しています。



慶應義塾大学 教授 蟹江憲史さん

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授、国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)シニアリサーチフェロー。専門は国際関係論、地球システム・ガバナンス。2012年度のFSを経て、2013年度から2015年度まで環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクトS-11(持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究プロジェクト)プロジェクトリーダーを務めた。

ECO WORD やさしいエコワード講座

- ①ダボス会議……毎年スイスのダボスで開催される、世界経済フォーラム(WEF)の年次総会。世界中から政財界のトップや学者が参加し、世界経済や環境問題など幅広いテーマの意見交換を行う。
- ②IoT……PCやプリンターなどのIT関連機器が接続されるインターネットに、それ以外のあらゆるモノを接続し、制御・情報を活用すること。
- ③エシカル消費……人や環境負荷への配慮、社会貢献を重視して生産された製品やサービスを、消費者が選んで購入・利用すること。
- ④限界集落……高齢化や過疎化によって、冠婚葬祭をはじめとした経済的・社会的な共同生活の維持が困難になっている集落のこと。

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう	6 安全な水とトイレを世界中に	11 住み続けられるまちづくりを	16 平和と公正をすべての人に
2 飢餓をゼロに	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	12 つくる責任 つかう責任	17 パートナリシップで目標を達成しよう
3 すべての人に健康と福祉を	8 働きがいも経済成長も	13 気候変動に具体的な対策を	すべての目標とターゲットの一覧は国連広報センターホームページで確認できます。
4 質の高い教育をみんなに	9 産業と技術革新の基礎をつくらう	14 海の豊かさを守ろう	
5 ジェンダー平等を実現しよう	10 人や国の不平等をなくそう	15 陸の豊かさを守ろう	

SDGsとは? 「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、国連加盟193か国が2016年~30年の15年間で達成するために掲げた目標です。「誰ひとり取り残さない」という基本理念に基づき、17の目標と169のターゲットで構成されています。SDGsは開発途上国だけでなく全ての国に適用される目標であり、先進国も積極的に取り組むことが求められています。